

当院で乳房再建ティッシュエキスパンダーおよびシリコンインプラントの手術を受けた皆様へ

近年、乳房再建や豊胸時に使用する、表面がざらざらしたテクスチャードタイプのインプラント挿入後に、「ブレスト・インプラント関連未分化大細胞型リンパ腫（Breast Implant Associated Anaplastic Large Cell Lymphoma, BIA-ALCL）」という腫瘍が発生する場合があることが分かってきました。この疾患はT細胞性リンパ腫の一種であり、乳がんの再発とはことなる腫瘍です。当院では、保険収載された2013年よりアラガン社の乳房インプラントを用いておりますが、国内では他社の製品は保険医療としては認められていない現状がございます。このインプラントが挿入されているかたの1,000人ー30,000人に1人にこのリンパ腫が発生すると報告され、日本では2019年に初めて1人の発生が報告されました。インプラントを入れてから平均約9年で発生することが多いようですが、発生機序など、いまだ不明な点も少なくありません。BIA-ALCLの症状は、インプラント周囲の腫れ（漿液腫）、疼痛、左右非対称、乳房や腋窩のしこり（腫瘤）、発赤、胸の硬化（被膜拘縮）、潰瘍などが報告されています。

この BIA-ALCL を発症しても早期に発見されれば、インプラントとその周囲の組織を切除することで治癒すると言われていています。一方、死亡例も報告されています（573 例のうち 33 例、5.75%※米国からの報告）。

これらの報告を受け、2019 年 7 月 24 日にアラガン社は製品の自主回収を決定しました。これに伴い日本国内でも今後はこれらの製品を使用した手術ができなくなりました。

一方、すでに乳房にインプラントが挿入されている場合、症状のないかたに対する予防的なインプラント摘出手術は推奨されておられません（日本オンコプラスチックブレストサージェリー学会ホームページ：

<http://jopbs.umin.jp/medical/index.html>）。当院では、同手術を行った患者さんには、半年-1 年に 1 回のエコー検査を実施するようにはしておりましたが、今後も今までと同様、慎重に経過観察させていただきます。今後、学会や関連機関からの同製品に関する情報が入手出来次第、希望される患者さんには直に説明させていただきます。